

株式会社 MORESCO

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

個人投資家様向け説明会

東証プライム 5018（石油・石炭製品）

2022/11

01 会社紹介

02 成長戦略

03 サステナビリティ 経営の推進

04 財務状況及び株式情報

01 会社紹介

02 成長戦略

03 サステナビリティ 経営の推進

04 財務状況及び株式情報



地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

名称 株式会社MORESCO（英文名：MORESCO Corporation）

本社所在地 神戸市中央区港島南町5丁目5-3

事業内容 特殊潤滑油、合成潤滑油、素材、ホットメルト接着剤、デバイス材料などの化学品の開発、製造、販売

設立 1958年(昭和33年)10月27日

資本金 2,118百万円

代表者 代表取締役社長 CEO 両角元寿

従業員数 [連結]787名 [単体]384名（2022年2月末日）

売上高 27,300百万円（2022年2月期：連結）

経常利益 2,011百万円（2022年2月期：連結）

01

私たちは、「ユーザーのための研究開発」をモットーに、境界領域におけるニーズに応えることによって、社会に貢献できる企業グループを目指します。

02

私たちは、境界領域のスペシャリストとして、新しい分野へも展開をはかり、新たな機能とサービスを提供します。

03

私たちは、人間性を尊重する職場づくりと、自由な発想によって、新しい価値を創造する企業グループを目指します

地球にやさしいオンリーワンを
世界に届けるMORESCOグループ

未来のために もっと化学 もっと輝く

過酷な環境、特殊な環境で使われる
特殊潤滑油

精密機器や過酷な環境で使われる
合成潤滑油

紙おむつや粘着ラベルなどに使われる
ホットメルト接着剤

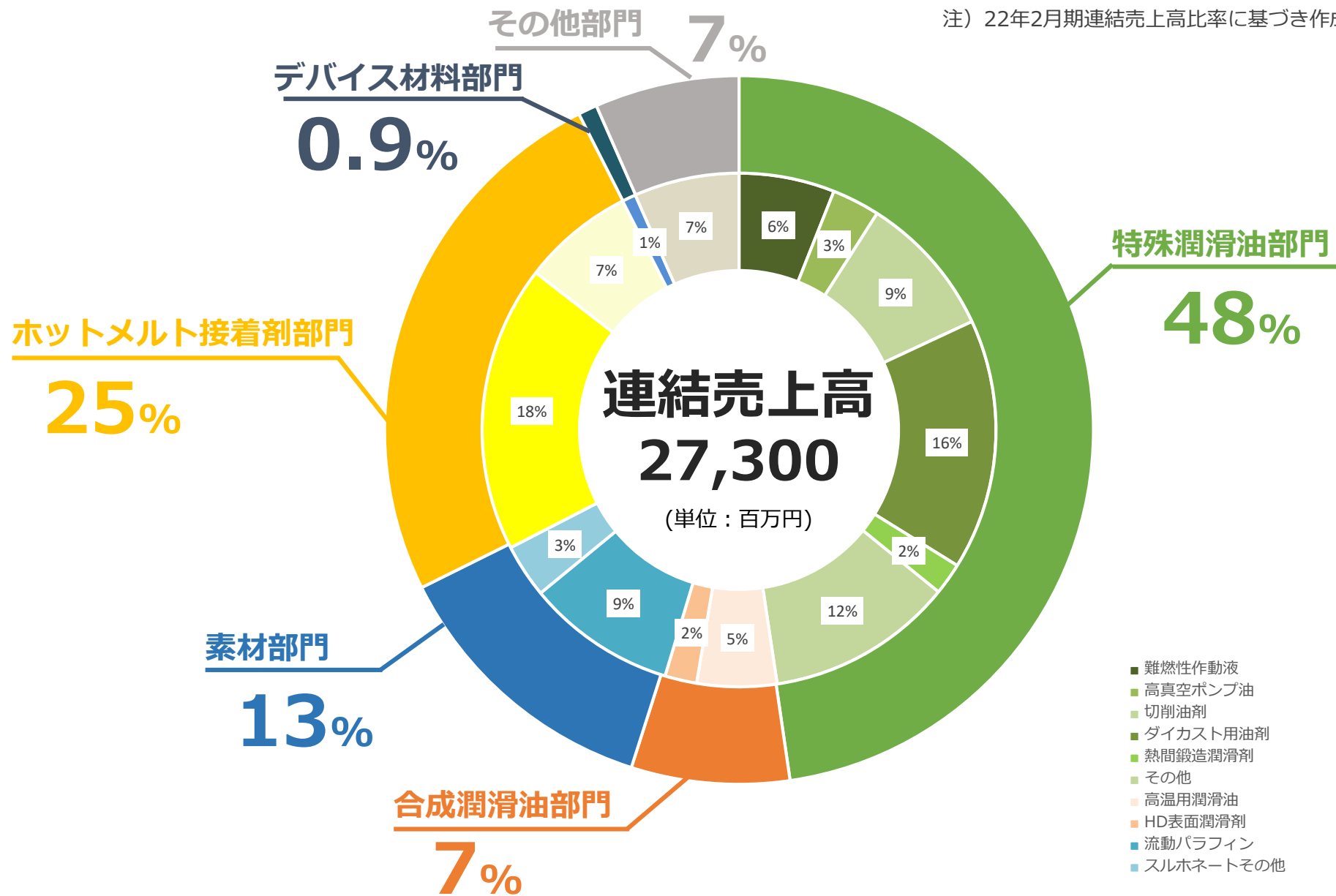
化粧品原料などに使われる
素材

有機EL・照明などに使われる
デバイス関連製品

MORESCOの関わる市場



注) 22年2月期連結売上高比率に基づき作成



01

会社紹介

02

成長戦略

- ◆ EV自動車向けの製品開発・販売強化
- ◆ 環境対応製品の開発・販売
- ◆ エネルギー及びライフサイエンス分野への進出
- ◆ 社会課題解決に向けたR&D強化

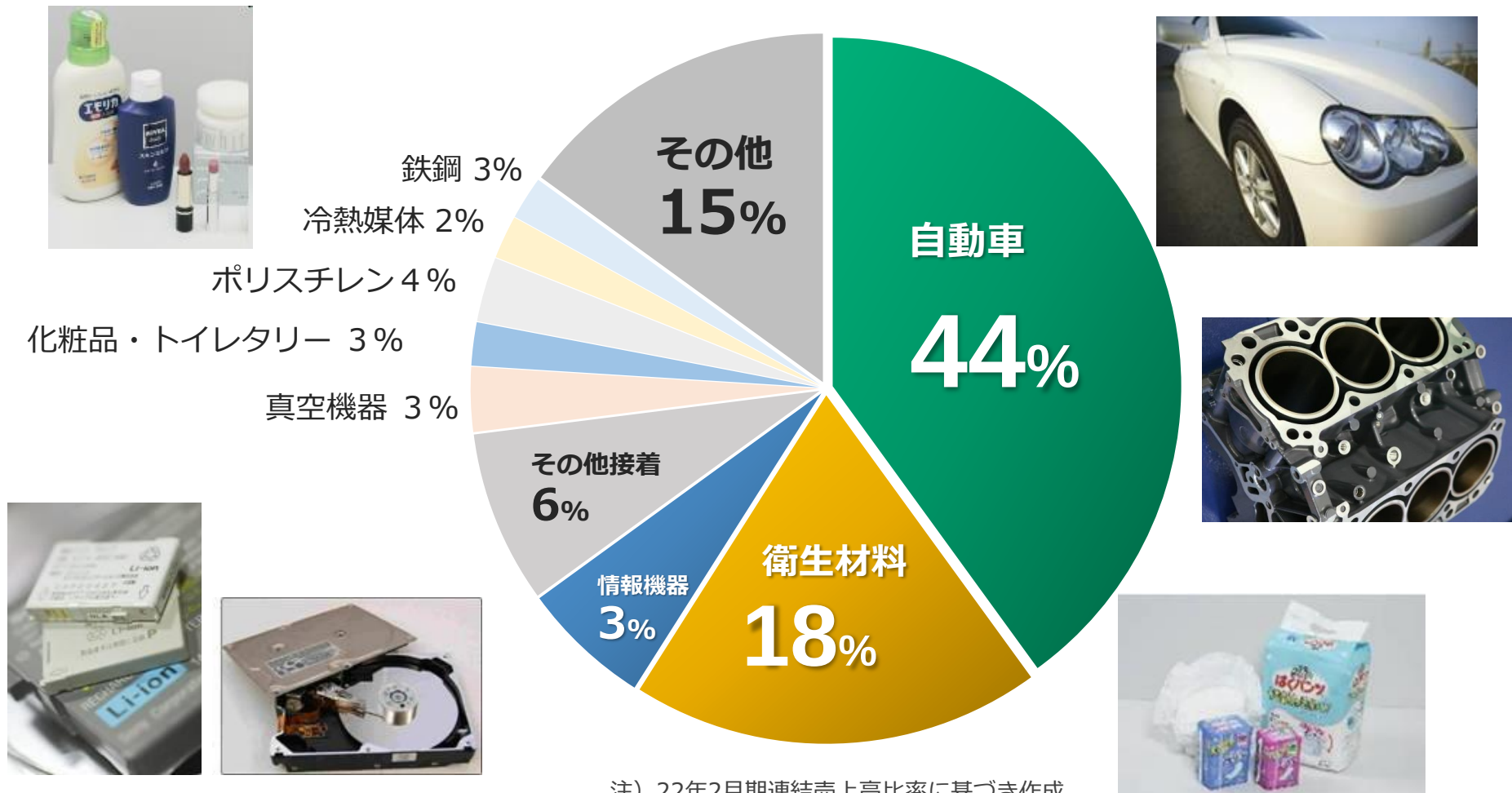
03

サステナビリティ 経営の推進

04

財務状況及び株式情報

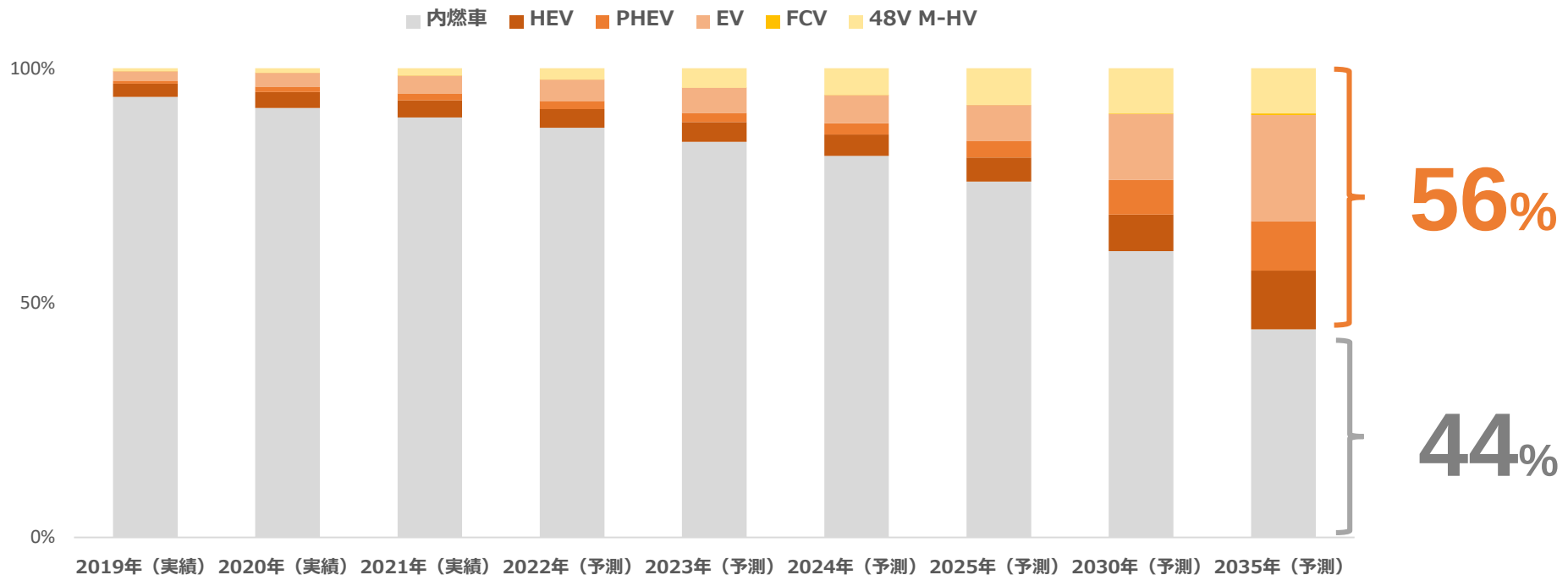
➤ 自動車関連分野における売上高が4割強



注）22年2月期連結売上高比率に基づき作成

- 短期：半導体需給逼迫は2023年まで影響が続く
- 長期：自動車の電動化が進み、世界市場の過半数を占める

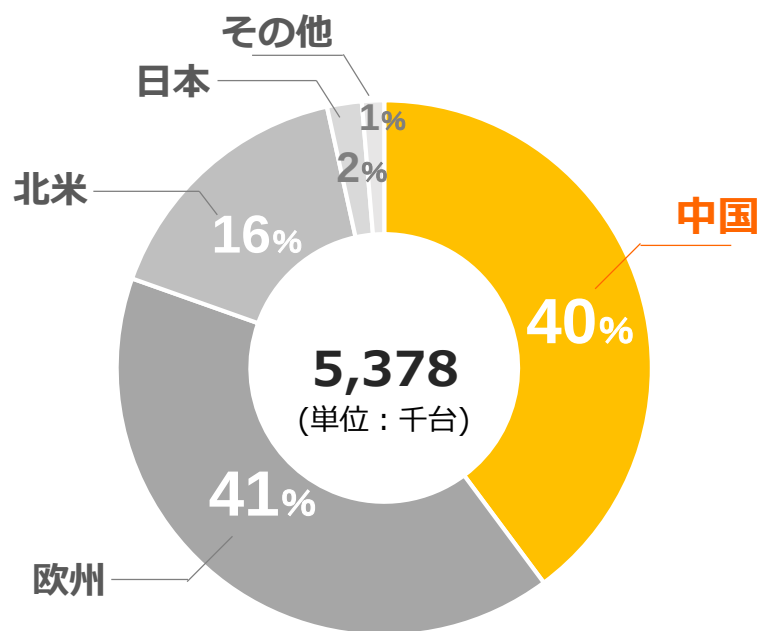
世界自動車市場におけるタイプ別割合



出典：富士経済 ワールドワイド市場長期展望（2021）に基づき自社作成

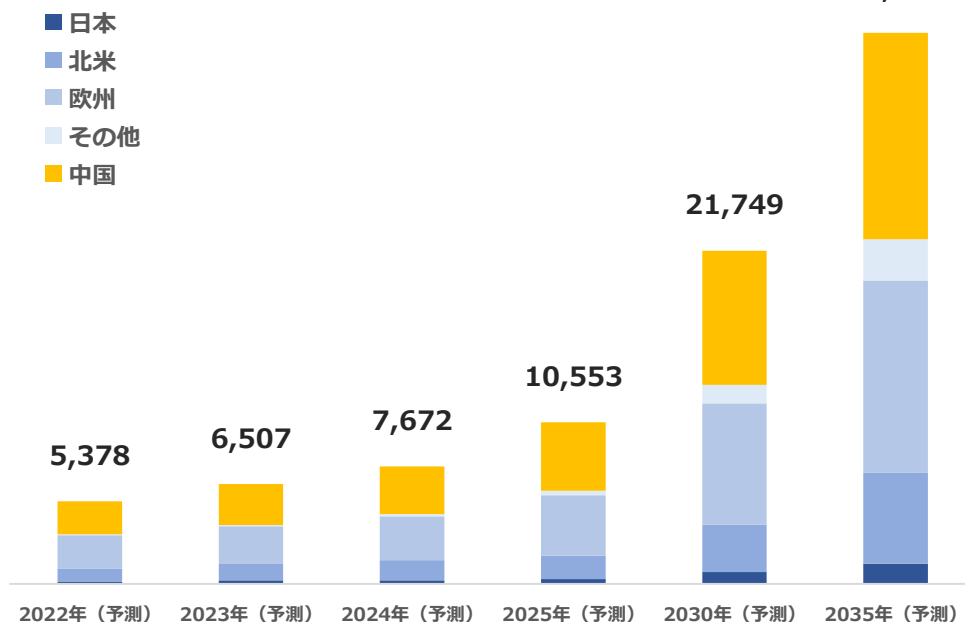
- 新エネルギー車市場を牽引する中国で軽量化部材向け新製品を開発し、グローバル展開を図る

2022年エリア別の販売数量予測



2022年～2035年販売数量推移

(単位：千台)



出典：富士経済 ワールドワイド市場長期展望（2021）に基づき自社作成

*中国政府は電気自動車（EV）とプラグインハイブリッド車（PHV）、燃料電池車（FCV）を新エネルギー車と区分する

01

会社紹介

02

成長戦略

- ◆ EV自動車向けの製品開発・販売強化
- ◆ 環境対応製品の開発・販売
- ◆ エネルギー及びライフサイエンス分野への進出
- ◆ 社会課題解決に向けたR&D強化

03

サステナビリティ 経営の推進

04

財務状況及び株式情報

➤ 極少量塗布により廃液削減と金型の長寿命化に貢献

- ✓ 従来品の**1/100**の塗布量
- ✓ 飛沫を防ぐことで環境改善
- ✓ サイクルタイムの大幅改善

従来品

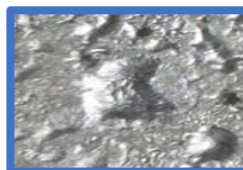
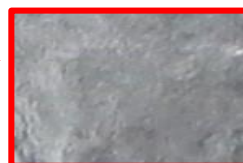
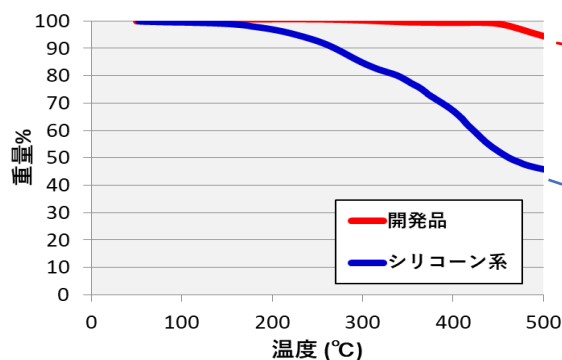


開発品



➤ 低ガス性、低腐食性により新エネルギー車のアルミ部品に使用可能

シリコン系とガス量比較



アルミ新合金適合性試験

従来品



開発品



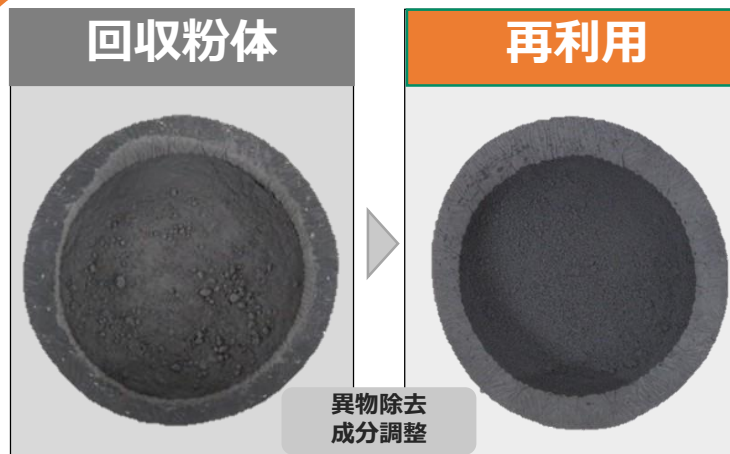
従来の取り組み

- 古くなった水-グリコール系作動液から、劣化した添加剤（全体の20%）を除き、残りを原材料に再投入



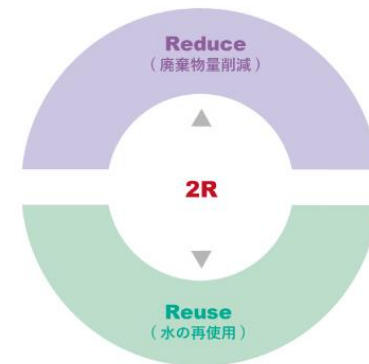
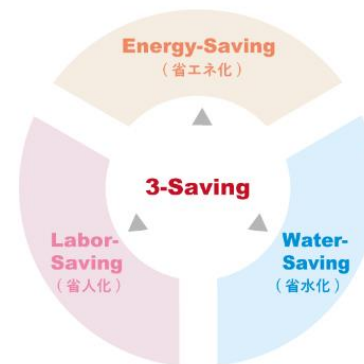
新たな取り組み

- 使用後の粉体離型剤を再利用
- 潤滑油におけるリサイクル原料の使用拡大



株式会社 **マツケン**

工場の脱炭素化に貢献する
環境関連事業専門会社



導入事例

水溶性切削油高濃度廃水

全量産廃処分から

1/5濃縮液処分へ減容

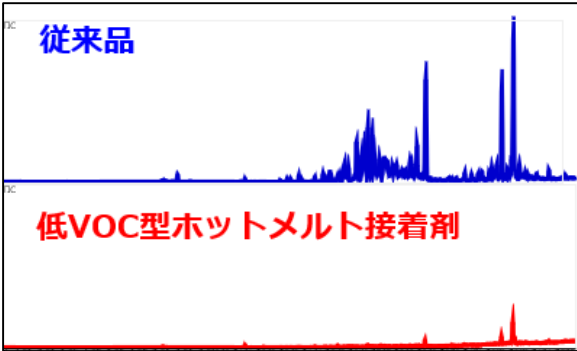


- バイオマスマーク認定商品を5品番ラインナップ
- 衛生材料用向け植物由来樹脂を20%～40%配合した製品を開発中

品番	BM-546Z	BM-105	モレスコメルト バイオマス25A		
			BM-508	TN-529	TN-579Z
バイオマス度	 バイオマス No.200115	 バイオマス No.200116	 バイオマス No.200114		
主成分	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム	合成ゴム
特長	汎用ラベル向け 強粘着・低ブリード	FDA175.125準拠 (食品直貼り可)	冷凍・冷蔵品へ 貼付け可能	冷蔵品へ貼付け可能 ダイカット性良好	中粘着 汎用品 オイルブリード良好

➤ 低臭気のバイオマスホットメルトも提供可能

＊ 当社低臭気技術により、粘着機能を維持しながらバイオマス原料特有の臭気を低減可能



低臭気バイオマスホットメルト
～環境にやさしいモノをより使いやすく～

01

会社紹介

02

成長戦略

- ◆ EV自動車向けの製品開発・販売強化
- ◆ 環境対応製品の開発・販売
- ◆ エネルギー及びライフサイエンス分野への進出
- ◆ 社会課題解決に向けたR&D強化

03

サステナビリティ 経営の推進

04

財務状況及び株式情報

世界有数加速器の 高放射線エリアで採用

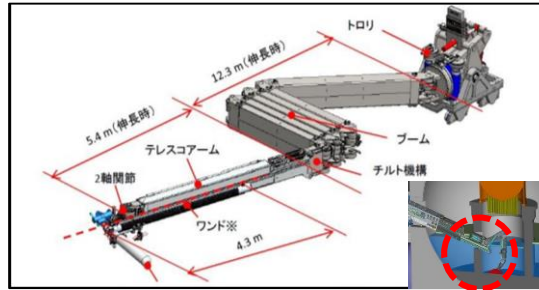


CERN : 欧・スイスと仏国境に跨る、
全長28kmの世界最長加速器



ESS : 欧・スウェーデン
世界最高ビーム強度の加速器

福島第一原発の 廃炉工程に採用

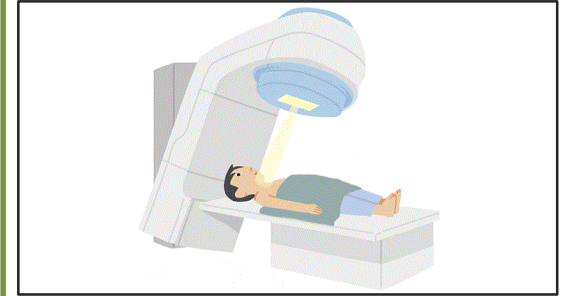


高線量下で燃料デブリ取り出す
ロボットの可動部分に使用

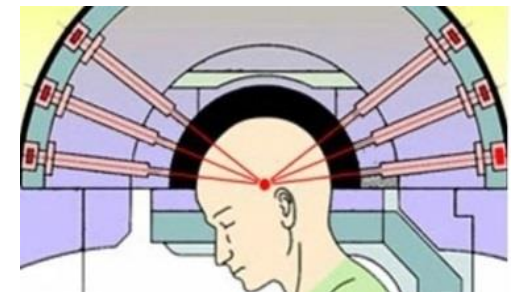


第6回目福島廃炉国際フォーラム

先端医療の 安全稼働を支える



放射線・重量子線医療
内部可動機器一式



医療用放射線同位体 製造施設
内部可動機器一式

➤ OPVはSi系太陽電池よりペイバックタイム*を1/3まで短縮し、環境負荷低減に貢献

* 材料から制作までに生じたCO₂の回収期間

➤ 大学と連携し、発電効率向上の材料を開発中

CO₂ペイバックタイム（月数）

単結晶Si系太陽電池	42
OPV（発電効率 5 %）	13
OPV（発電効率 7 %）	9
OPV（発電効率 10 %）	6

約29ヶ月削減

Si系太陽電池と併用で都市部高層ビルの太陽光発電量を増やす



ビル中層：OPV（シースルー）
使用用途例：モニター補助電源

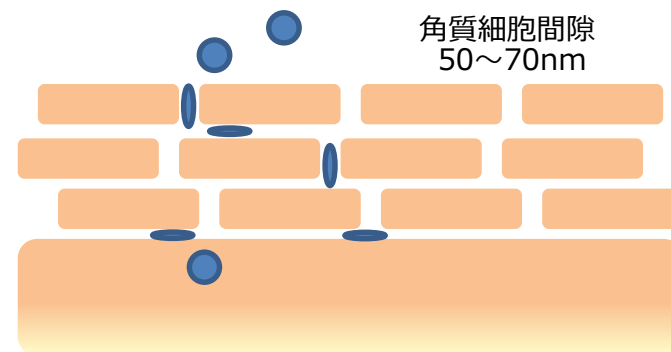
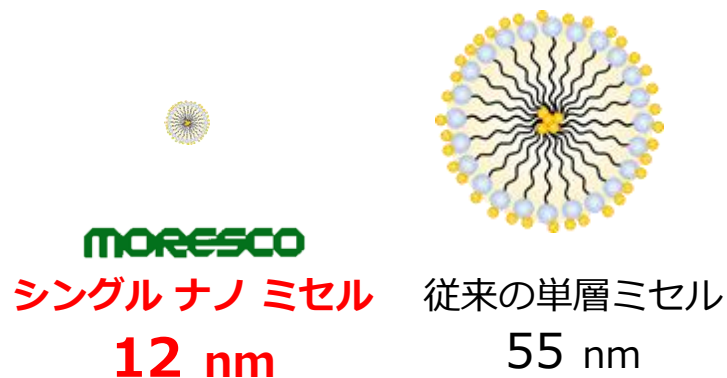


ビル低層：OPV（印刷）
使用用途例：電子ペーパー



➤ ナノエマルジョン技術

機能性素材を従来よりも非常に小さいサイズに溶解



ナノサイズの乳化により、難水溶性薬物の経口/経皮吸収率が大幅に改善可能

※既存材料（医薬品添加物、医薬部外品原料、食品添加物）で構成

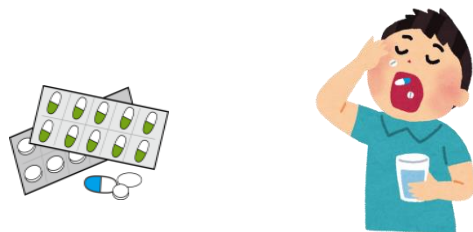


大学発ベンチャーと 創薬の共同研究開発を推進



生活習慣病改善を期待できる
オートファジーを対象とした創薬活動を推進
薬理活性が向上した重要化合物を取得

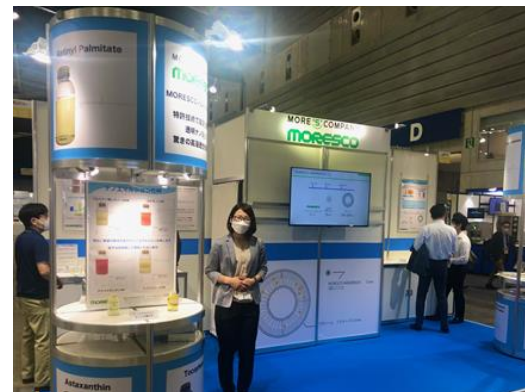
**2023年
第一弾の特許出願予定**



オートファジー研究は、老化に関連する様々な現象や疾患の予防・治療へつながる研究

化粧品原料展示会に出展 MORESCO-NANOREACHを宣伝

日本



海外（韓国）



01 会社紹介

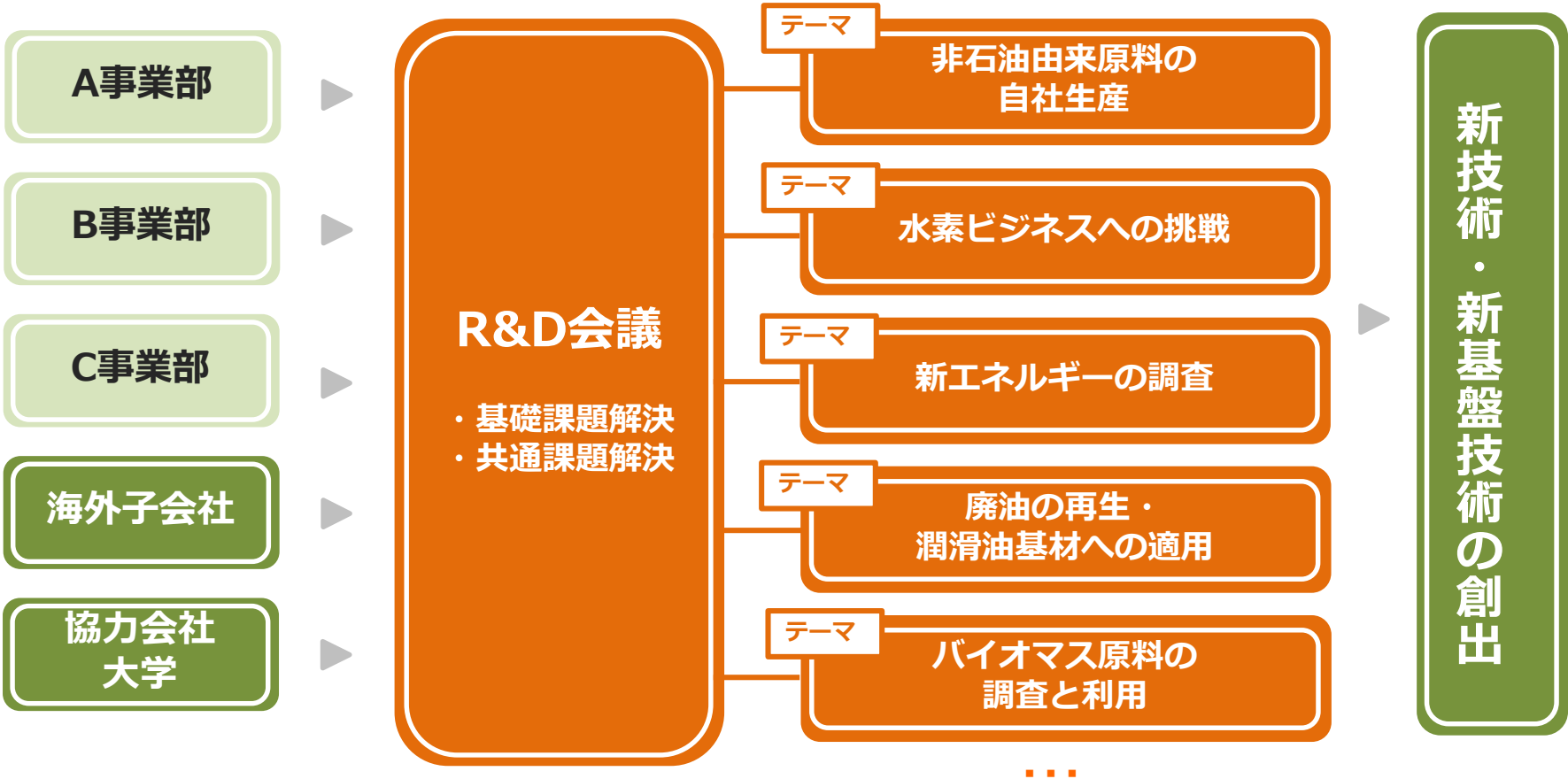
02 成長戦略

- ◆ EV自動車向けの製品開発・販売強化
- ◆ 環境対応製品の開発・販売
- ◆ エネルギー及びライフサイエンス分野への進出
- ◆ **社会課題解決に向けたR&D強化**

03 サステナビリティ 経営の推進

04 財務状況及び株式情報

【従来】 各市場でのニーズに即応できる事業部別の開発体制
+
【新設】 事業部を横断し、社内間及び産官学と連携した開発会議



【現状】

ガス・水蒸気透過率測定装置 MORESCO-SuperDetectの普及

性能	(既存) シングルチャン バータイプ	(新) マルチチャンバー タイプ
試料室数 (チャンバー数)	(1チャンバー)	(4チャンバー)
測定感度	($\sim 1 \times 10^{-6}$)	($\sim 3 \times 10^{-5}$)
測定効率 (10^3 オーダー)	(2サンプル/4日間)	(4サンプル/4日間)
結果解析	(高度)	(簡単)
用途	研究開発	生産工程 品質管理工程
活用分野	有機デバイス	電子部品・電子機器 食品・医薬品包装

既存



新



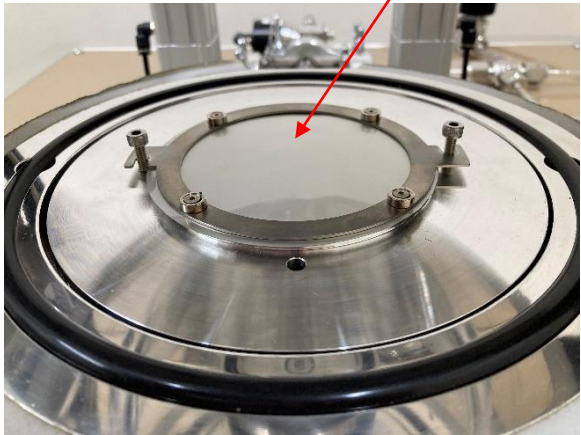
➤ 更に水素透過度測定に特化した装置を開発中

【今後】

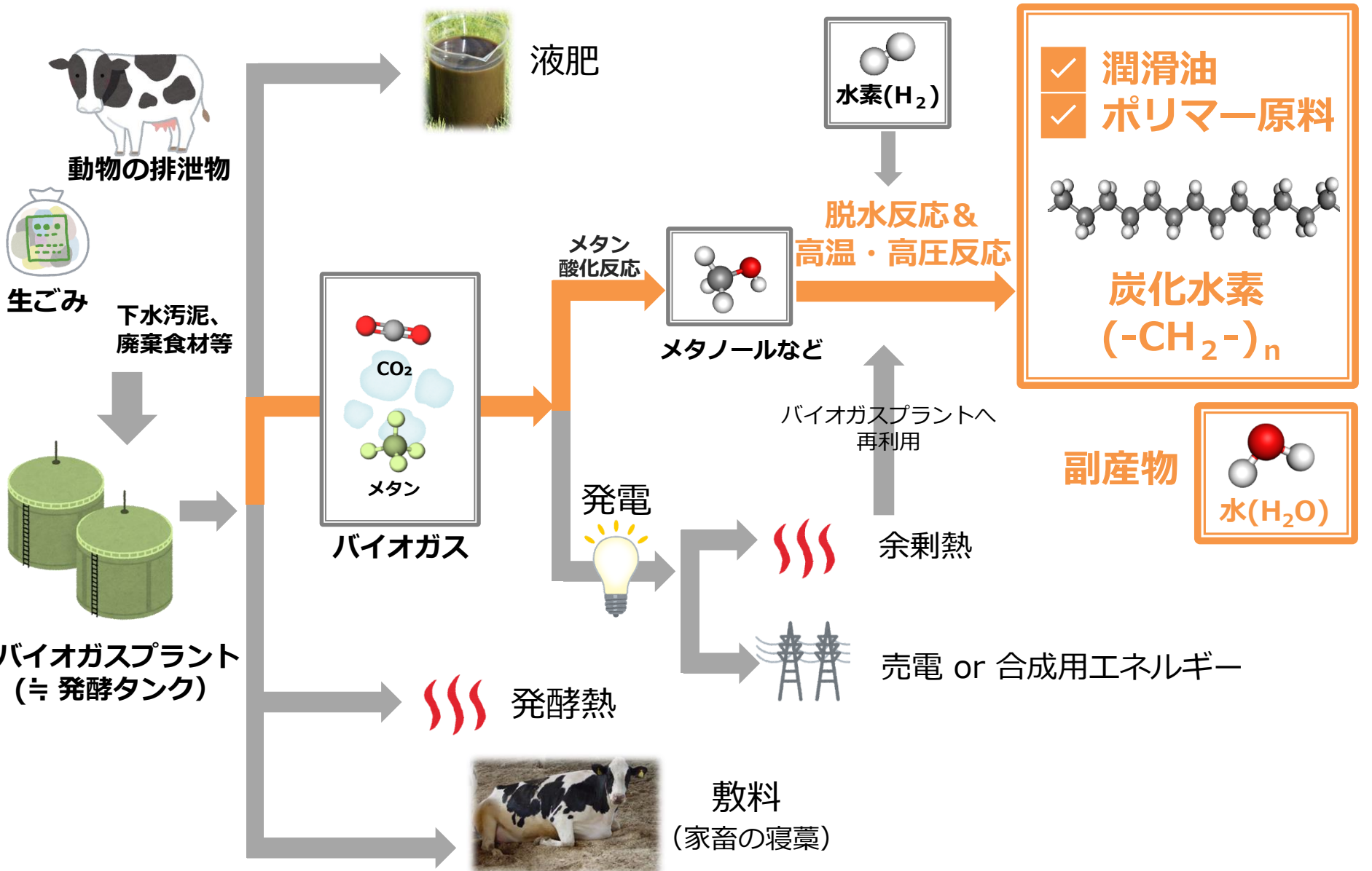
水素用物質開発の プラットフォームを目指す

- 各メーカー装置で正確な測定を導き出せる校正用フィルムにより、測定結果のデータベースを構築し、業界の標準化を目指す

校正用フィルム



校正用フィルムをセットした測定装置



01 会社紹介

02 成長戦略

03 サステナビリティ経営の推進

04 財務状況及び株式情報

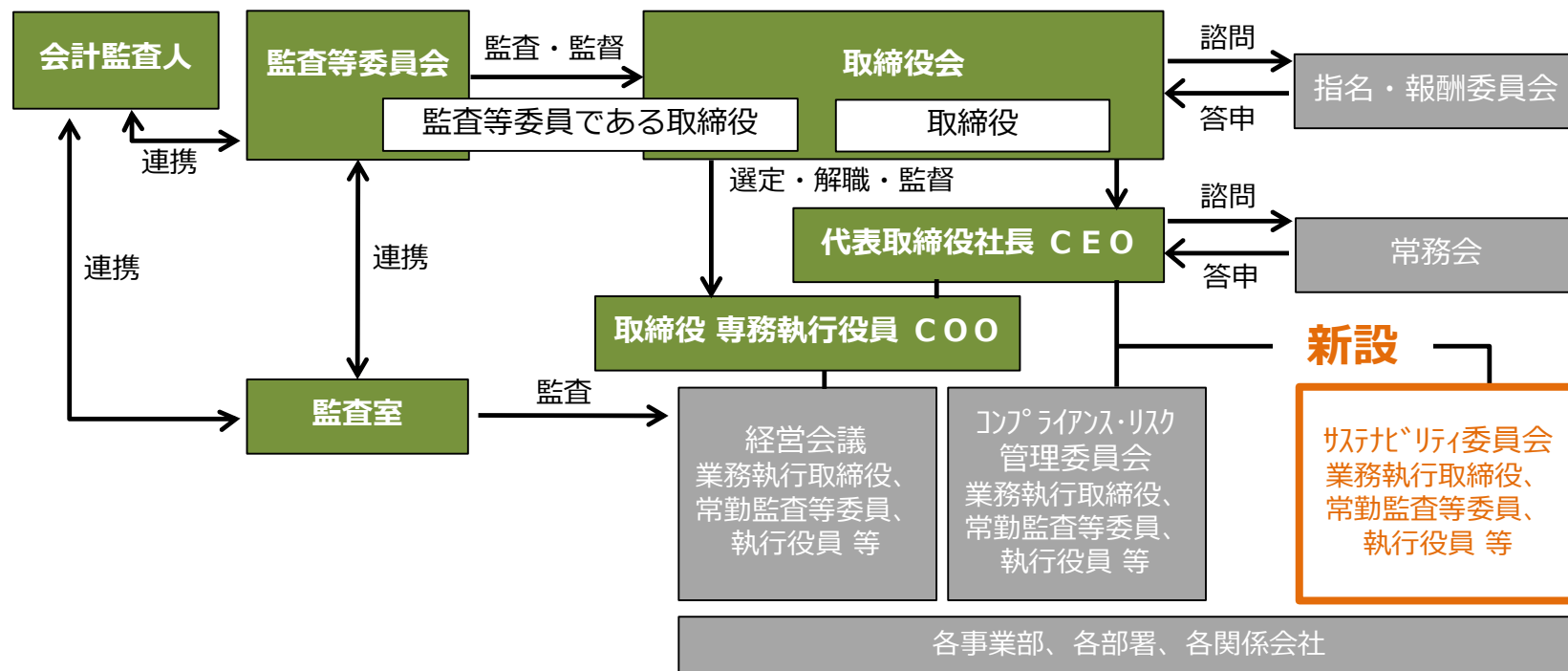
➤ 基本方針の制定

MORESCOグループは

経営理念にある境界領域のスペシャリストとして、

「持続可能社会の実現」と「中長期的な企業価値の向上」を両立させつつ事業を運営して
ステークホルダーの信頼を高めるとともに、社会課題や環境課題の解決により一層貢献するべく、
サステナビリティ活動を積極的に推進します。

➤ 推進体制の構築



7つのマテリアリティ（重要課題）

➤ 5つの事業活動関連と2つの社内基盤関連で構成され、2030年に向かって着実に前進

	マテリアリティ	関連するSDGs	目指す取り組み
事業活動に関する 重要課題	環境負荷低減の実現	   	・より長寿命で、廃棄物や環境負荷が少ない製品の開発 ・潤滑油や容器等のリサイクル推進 ・生産プロセスにおけるCO2排出量、廃棄物、排水量の抑制 ・環境に配慮した製品供給 ・再生可能エネルギーの推進、エネルギーの省力化
	革新的な製品、サービスの開発	 	・「環境分野」「情報関連分野」「エネルギーデバイス分野」を中心とした既存分野での技術革新に貢献 ・新たな分野の開拓
	技術革新による新たな価値創造と生産性の向上	  	・新たなビジネスモデルの構築 ・デジタル技術を活用し、生産効率の最適化と環境負荷の最小化を実現 ・事故やトラブルの防止や労働負担軽減による安心・安全・快適な労働環境の実現
	サプライチェーン強靱化による持続的な安定供給	  	・原材料の安定調達 ・人権や原料由来を考慮した調達 ・供給体制の強化 ・BCP体制整備の加速
	パートナーシップの強化		・研究機関等との共同研究により、イノベーションを創出 ・材料メーカーや販売代理店等とパートナーシップを結び、共通課題を達成 ・地域社会との価値共創とCSR活動の強化
社内基盤に関する 重要課題	多様な人材の育成と登用による人的資本の強化	  	・グローバルやデジタル分野などで活躍できる人材の育成 ・女性人材の登用 ・人的資本の強化・成長を促す評価制度や研修制度
	心身ともに充実でき、人権を重視した働き方の実現	  	・ワークライフバランスの向上 ・社員の健康促進 ・DE&I（多様性・公平性・包摂性）重視の企業文化 ・人権を重視した職場環境の整備 ・ハラスメントのない職場 ・業務プロセスの見直し

2030年までに自社消費エネルギーによるGHG排出量を**46%**削減（2013年対比）

サプライチェーンを含め、**2050年**までに**カーボンニュートラル**を実現

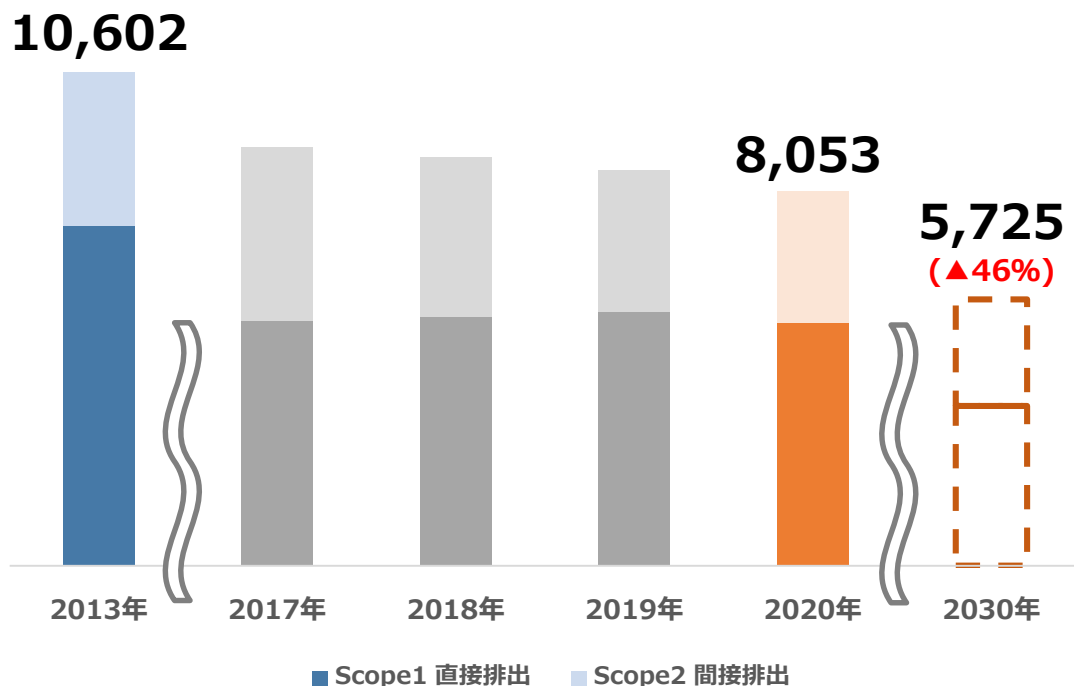
GHG排出量 **Scope 3** の目標設定を今期中公開に向けて調整中



2022年11月11日
賛同表明

MORESCOグループ（国内）のGHG排出量推移

単位: t- CO₂



2020年 vs 2013年

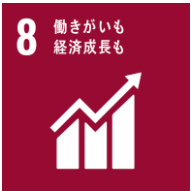
Scope 1 ▲ **28%**

Scope 2 ▲ **14%**

総排出量 ▲ **24%**

健康経営優良法人(大規模法人部門)

2年連続認定

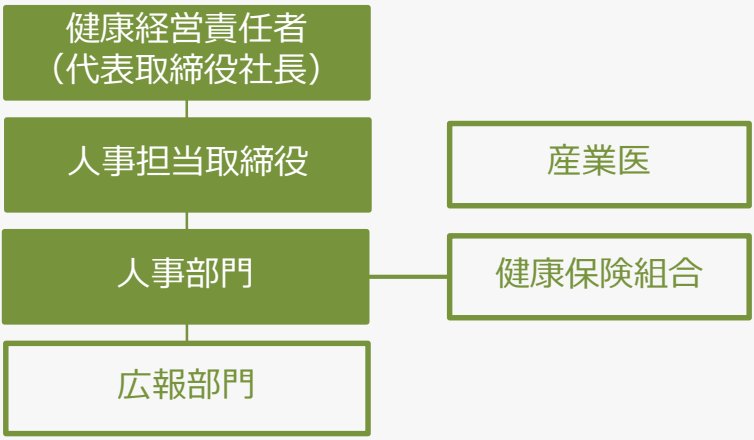


※特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度（経済産業省）

健康経営宣言

MORESCOは、従業員が心身ともに健康であることが、企業の持続的な発展に不可欠と考え、
「一人一人が豊かな環境で育ち、新たな価値を育てていく会社」を実現するため、従業員の健康づくりを推進していきます。

体制



01 会社紹介

02 成長戦略

03 サステナビリティ 経営の推進

04 財務状況及び株式情報

【増収】 製品販売価格の是正

【減益】 原材料価格の高騰

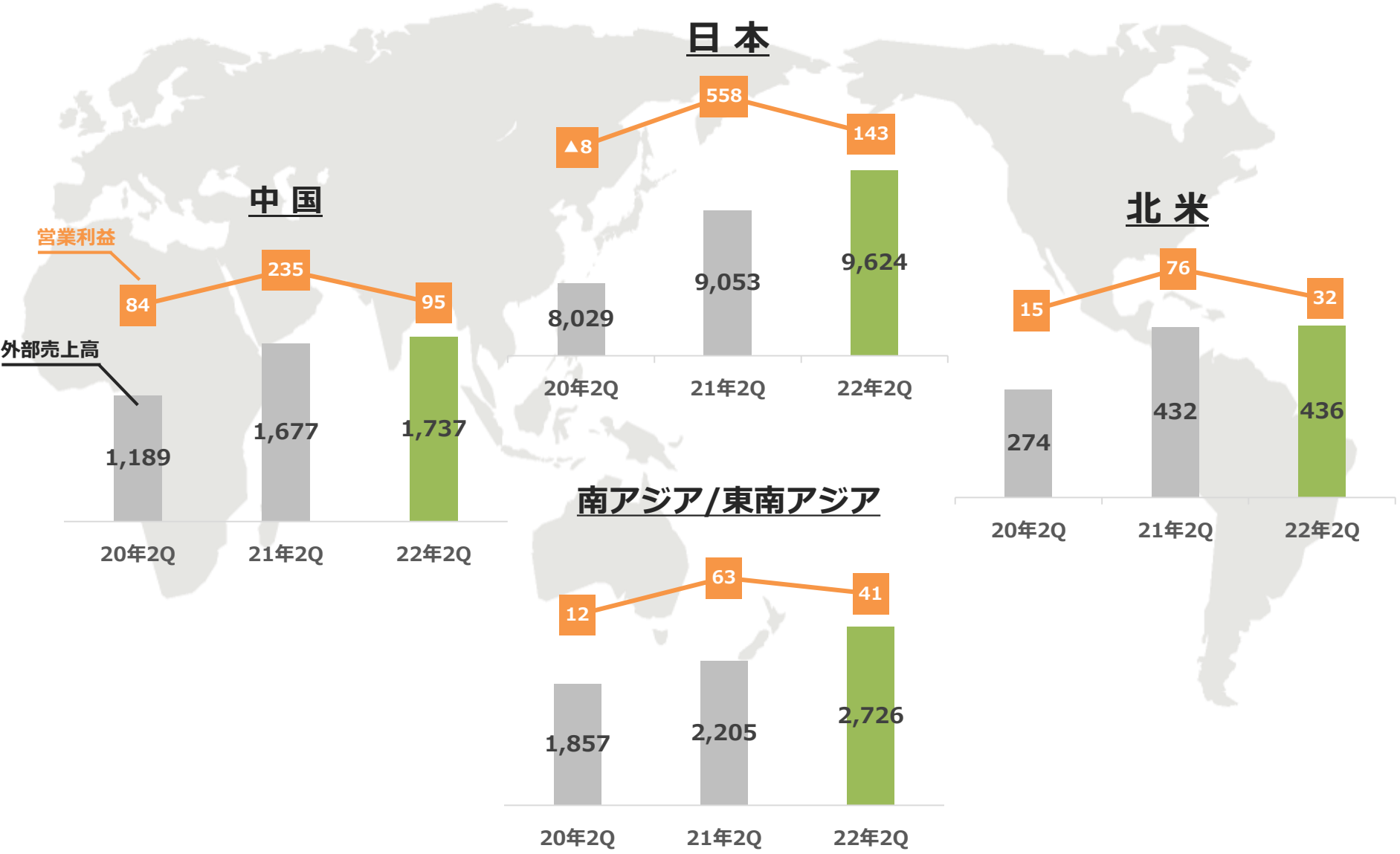
(百万円)	21年2Q累計	22年2Q累計	前年比
売上高	13,366	14,523	+8.7%
売上総利益	4,544	4,039	▲11.1%
販管費	3,621	3,744	+3.4%
営業利益	923	295	▲68.0%
営業外損益	240	550	+129.4%
経常利益	1,163	846	▲27.3%
特別損益	833	—	—
税引前利益	1,996	846	▲57.6%
当期純利益 ※	1,359	504	▲62.9%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益, 以下同様

(百万円)	21年2Q累計	22年2Q累計	前年比	増減要因
特殊潤滑油	6,341	7,027	+10.8%	販売価格更正 高真空ポンプ油の需要回復 切削油剤の新規拡販
合成潤滑油	1,033	991	△4.1%	高温用潤滑剤の出荷数量減
(うち、HD潤滑剤)	351	392	+11.4%	円安影響による増収
素材	1,672	1,855	+11.0%	販売価格更正 流動パラフィンの国内出荷増加
ホットメルト接着剤	3,325	3,754	+12.9%	販売価格更正 海外拠点の衛生材料向け販売増
その他＊	995	896	△9.9%	
売上高合計	13,366	14,523	+8.7%	

＊21年2Q累計にはビル事業（約8百万円）を含む

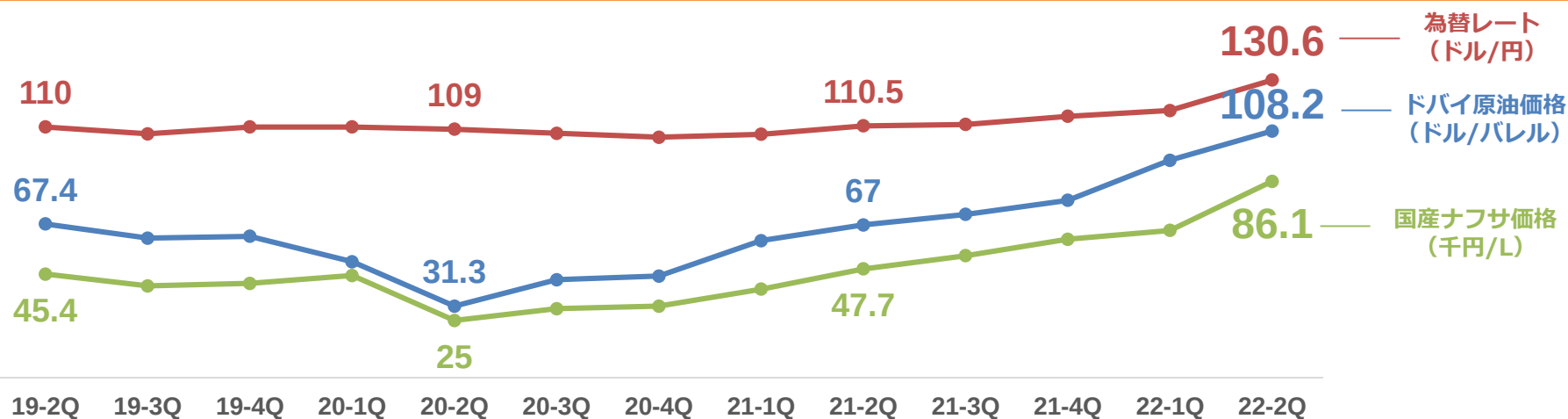
単位：百万円



	20年2Q累計	21年2Q累計	22年2Q累計
売上高	11,348	13,366	14,523
営業利益	100	923	295
当期純利益	△90	1,359	504
研究開発費	661	684	635
売上高比率	5.8%	5.1%	4.4%
設備投資額	326	334	284
MORESCO	269	176	128
連結子会社	57	158	156
減価償却費	652	590	612
有利子負債比率	12.0%	3.1%	6.2%
自己資本率	57.9%	63.6%	60.9%

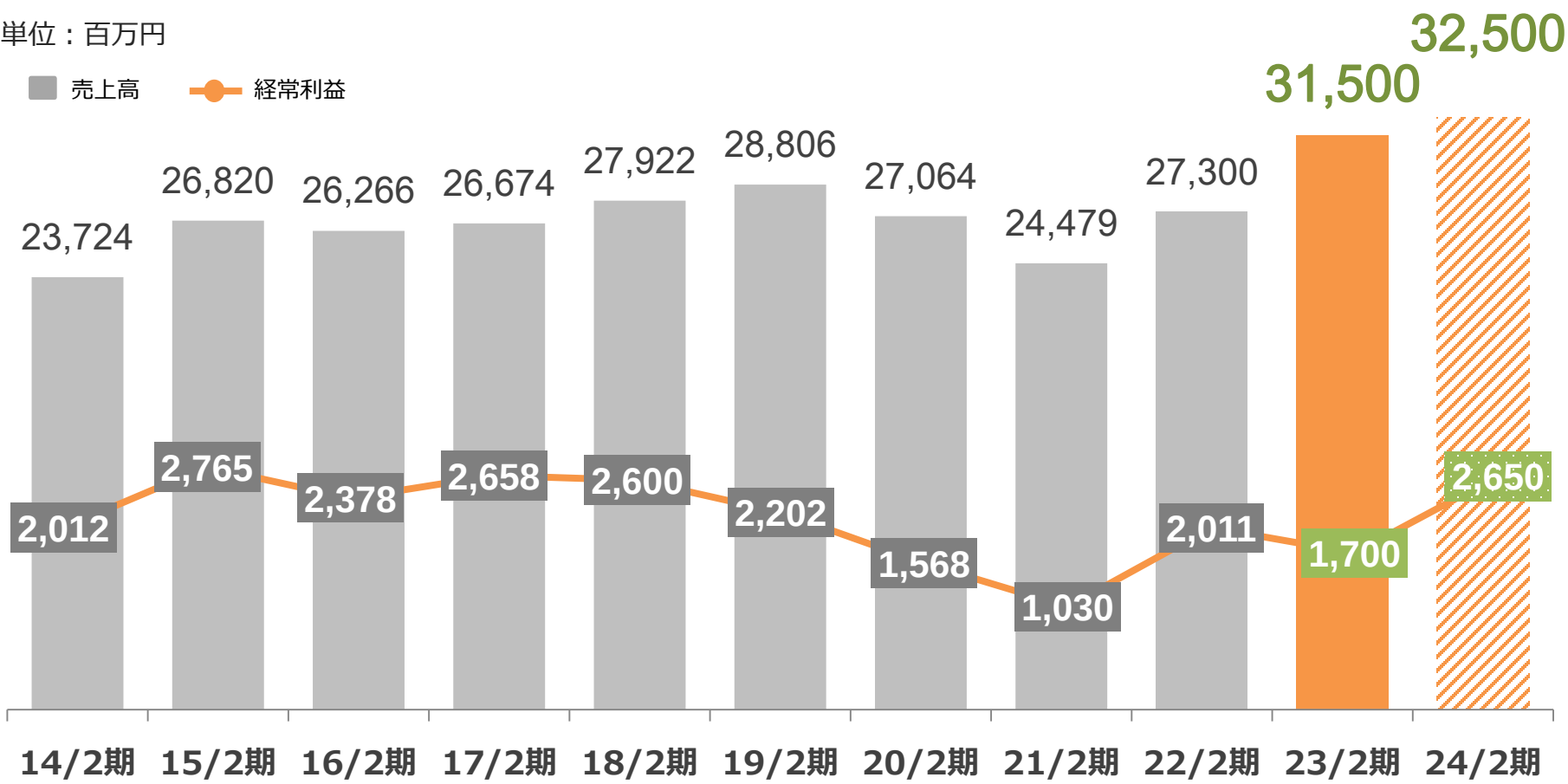
(百万円)	22年2Q累計	前年比	22年通期	計画比	前年比
売上高	14,523	+8.7%	31,500	+3.3%	+15.4%
営業利益	295	△68%	1,110	△40%	△23%
経常利益	846	△27%	1,700	△23%	△16%
当期純利益	504	△63%	1,000	△23%	△45%

➤ 経営環境

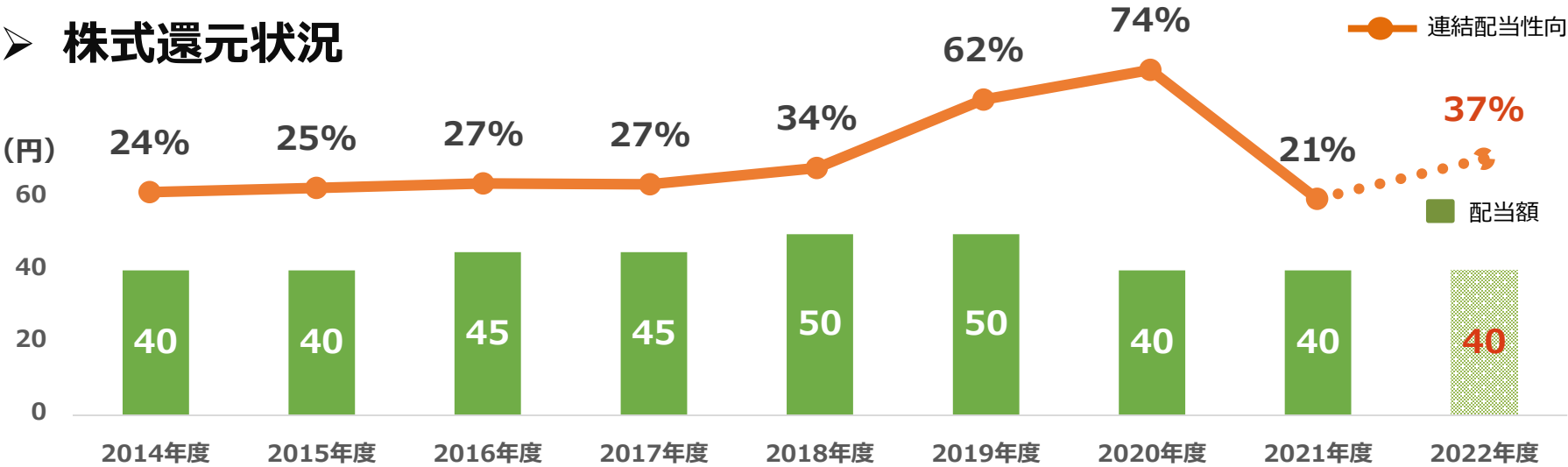


- 社会課題解決を起点としたビジネスの創出
- 事業の付加価値向上と新事業分野へのチャレンジを加速

単位：百万円



株式還元状況



株式情報



PBR (株価純資産倍率)	0.54 (2022.11.22実績)
PER (株価収益率)	10.39 (2022.11.22実績)
ROE (自己資本利益率)	10.7% (2022/2月期実績)

対象	毎年2月末日現在の株主名簿に記載または記録された 3单元（300株）以上の当社株式を保有されている株主様	
優待の内容	300株以上かつ継続保有期間3年未満	クオカード 3,000円分
	300株以上かつ継続保有期間3年以上	クオカード 4,000円分
基準日	期末：2月末日	
贈呈時期	5月下旬（事業報告書に同封）	



- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。